



TITLE:

手術方法ノ研究

AUTHOR(S):

CITATION:

手術方法ノ研究. 日本外科宝函 1934, 11(5): 1037-1038

ISSUE DATE:

1934-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203495>

RIGHT:

癰疽切開後ニ於ケル「ガーゼタンボン」ヲ廢スベシ

附 癰疽ナル病名ニ就テ

盛 彌 壽 男 (京都外科集談會 6 月例会所演)

現在 Panaritium トハ指趾ノ屈側及ビ爪部並ニ手掌、足蹠ニ於ケル急性化膿性炎衝デアルト定義セラレ Panaritium cutaneum, P. subcutaneum, P. subunguale, P. tendinosum, P. ossale, P. paraunguale 等ト分類セラレテキル。

「癰疽」ナル特殊ノ名稱ガ附セラレテキル所以ハ此部ニ於ケル炎衝ガ他ノ體部ニ於ケル炎衝ト其症狀ヲ異ニシテキルカラト考ヘル。然シコノコトハ皮下組織ニ於テノミサウデアツテ、其他ノ組織ニ於テハ他ノ體部ニ於ケルモノト著シイ差違ヲ認メナイ。

ソレ故私ハ Panaritium ナル名稱ハ皮下組織ニ於ケル化膿性急性炎衝ノミニ限り、換言スレバ Panaritium subcutaneum 及ビ Panaritium subunguale ノミニ限り、他ノ Panaritium ハ次ノ如ク稱シ度イ。即チ P. cutaneum ハ Pustula, P. tendinosum ハ Panaritium cum Tendovaginitis acuta purulenta, P. ossale ハ Panaritium cum Periostitis (Osteomyelitis) acuta purulenta, P. paraunguale ハ Paronychie ト稱スルノガ良クハナイカト思フ。

癰疽ノ切開後創隙ニ「ガーゼ」片ヲ插入シテ毛細管「ドレナージ」ヲ行フ方法ガ現在廣ク行ハレテキルヤウデアル。此方法ニヨツテハ手術ガ正確ニ遂行セラレタニ拘ラズ、翌日尙ホ搏動性ノ疼痛ヲ訴ヘル患者ニ屢々遭遇スル。カ、ル場合ニ創ヲ檢スルト創縁ニ血液及ビ膿汁ガ凝固乾燥シ之ガ「ガーゼ」ニ固着シテ恰モ創口ヲ栓塞シタカノ如キ状態トナツテキル。此「タンボン」ヲ除去スルト膿汁ガドツト溢レ出ル。カ、ルコトハ乾性「ガーゼ」ヲ用ヒテモ「リヴァノール」等ノ藥液ニ浸シタ濕性「ガーゼ」ヲ用ヒテモ同様デアル。

私ノ教室デハ昨年來癰疽切開後ニ「ガーゼタンボン」ヲ施スコトヲ全然廢止シ、之ニ代フル一切開ハ紡錘形ニ行ヒソノ上ニ軟膏繃帶ヲスルコトニシテキル。ソノ成績ハ良好デ術後ハ常ニ疼痛ノ急激ナ輕減乃至消失、膿汁ノ鬱滯皆無、治癒日數ノ短縮、惡化皆無デアル。

此事實カラ私ハ癰疽切開後ニハ「ガーゼタンボンナード」ヲ廢スベシト提唱スル。

手術方法ノ研究

第V—第IX肋軟骨部ノ混合感染ヲ來セル

結核性肋骨周圍炎ノ手術方針

盛 彌 壽 男 (京都外科集談會 6 月例会所演)

患者 西○昌○, 20歳, 無職

主訴 左側前胸壁ヨリノ膿汁排泄。

現病歴 一昨年12月末左側ノ肋膜炎ニ罹リ, 本年2月半頃カラ左乳腺ノ下部ニ呼吸ニ際シテ疼痛ガアツタ。此疼痛ハ間モナク治癒シタガ同所ニ無痛性ノ腫脹ノアルコトニ氣ガ付イタ。約2ヶ月後(本年4月14日)手術ヲ受ケタガ(肋軟骨ノ切除ヲ受ケタルモ肋軟骨ハ全部切除シナカツタト醫師カラ聞イテキル)爾來創ハ全ク治癒セズ今日ニ到ツテキル。

食思良, 睡眠良, 便通2日ニ1行, 月經順調。

現在症 體格營養中等, 肺臓左側前面打診音短, 呼吸音僅カニ微弱ナル他, 異常ヲ認メナイ。

局所々見 前胸廓ニ於テ左乳線ヨリ左前腋下線ニ到ル間 第VIII肋軟骨ノ高サデ横ニ6cm, ノ癒痕ガアリソノ中央端ニ示指頭大ノ物質缺損ガアリ此部ノ肉芽組織ハ軟弱貧血性デ中央カラ少量ノ膿汁ヲ排泄シテキル。局所性體溫上昇ナク硬結或ハ波動ヲ呈スル部ヲ證明シナイ。消息子ヲ通ズルト深サ約1.0cm. ソノ中央部ニ軟骨様硬, 表面平滑ナ物體ニフレル。コレハ第VIII肋軟骨ノ位置ニ相當シテキル。

結核性肋骨周圍炎手術後ノ瘻孔デ化膿菌ノ感染ヲ來セル肋軟骨壞死ノ存在スルモノトノ診斷ニ到達シタ。

扱本症ニ於テハ化膿菌ノ感染ヲ來セル肋軟骨壞死部ガ第VIII肋軟骨部ニ存スルノデ若シ肋軟骨ヲ切除スルナラバ第VIII肋軟骨トハ手術學的ニハ一軟骨ノ連續ト見做スベキ V, VI, VII, XIノ肋軟骨ヲモ同時ニ切除シナケレバナラナイ。

全身榮養狀態ノ向上ヲ治癒ノ絶對必要條件トスル結核疾患ニ罹ツテキル本患者ノ如キニ於テ1小瘻孔ヲ閉鎖セシムル爲ニ V—IX 肋軟骨ノ全切除ノ如キ廣汎ナ犠牲的手術ハ避クベキト考ヘ次ノ如キ豫備手術ヲ行ツタ。

第1回手術 瘻孔ハ煙草囊縫合ヲ施シテ閉鎖シ, 第VIII肋軟骨ノ走行ニ一致シ約5cm.ノ皮切ヲ加ヘ第VIII肋軟骨ト他ノ肋軟骨トノ連絡ヲ銳的ニ斷チ, 軟骨斷端ヲ有莖皮膚瓣ニヨツテ被覆シ皮膚ヲ縫合シタ。

創ハ第一期癒合ヲ營ンダ。

第2回手術 第1回手術後12日ヲ經テ先ヅ瘻管ヲ周圍ノ癒痕組織ト共ニ切除シ第VIII, 第IX肋軟骨ヲ切除シタ。皮膚ハ瘻管ト其周圍ノ癒痕組織ヲ切除シタ部ガ縫合シ得ナカツタ。

經過ハ頗良好デ昨日検査シタガ殘存肋軟骨ニ向フ瘻管ナドヲ形成シテキナイ。